



4年

【主題名】
進んではたらく
【教材名】
みかん出し
(光文書院)

主題を通して考えたいこと

〈勤労、公共の精神〉

- 自分が能動的に働くことは、自分の喜びや達成感につながり、その働きは、人のためになっていく。働く行為のもとになる心を知ることで、自分のために、人のために進んで働き、工夫して取り組んでいこうとする意欲を高めたい。



相談者・相談内容：考えをどう深めていくか



岐阜県美濃加茂市立古井小学校
田中 博子 先生

道徳科においても、子どもたちが、「あれ？ わからないな。」「話し合いたいな。」といった「課題の必然性」を感じてほしいと考え、導入を工夫しました。しかし、授業を通して勤労について深い学びがあったか疑問です。アドバイスをお願いします。

本時の展開

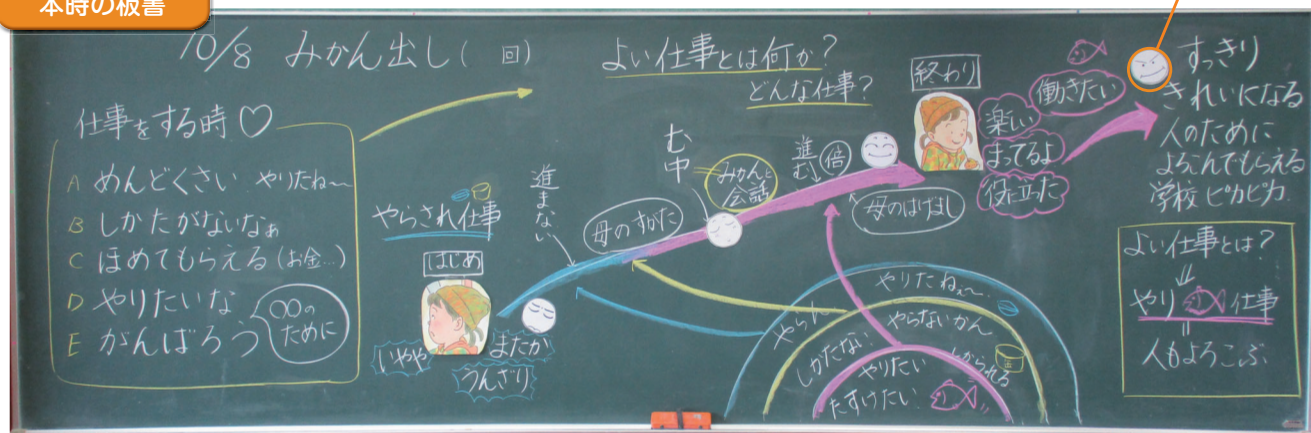
学 習 活 動

手 立 て

- 自分が仕事をするときの心を振り返り、ノートに書く。
- 「よい仕事をするには？」という本時のテーマをつくる。
- 主人公(純子)の働きぶりを整理し、行為の変容に気づく。
- 純子の働きぶりがどうして変わっていったのか、その行為のもととなった心を考える。
- 自分から進んで働きたいと感じ、主体的に働くようになっていくかを考える。
- 純子の仕事ぶりの変容から何を学んだかをまとめ、自分を振り返る。

- 授業をする前の自分もっている「働く」ときの気持ちを確かめさせる。意見を分類しながら板書し、問題意識をもたせ、本時のテーマを共有する。
- 板書の中で、純子の心を表情カードで表し、大きな変化があったことを全員に印象づける。
- チョークの色や矢印の太さを変えることで、純子の「勤労」に対する心の変化を視覚的にとらえさせる。
- 話し合いを進めることによって、能動的な行為(働きぶり)は、自分の喜びや達成感となり、さらに人のためになっていることに気づかせる。その心で働くことどんな世界が生まれるのかまでを想像させる。
- 本時の学びを短い文で表現し、合い言葉として実践力につなげていく。

本時の板書



表情カード

授業で工夫した点

① 自己理解をしっかりと

「働くこと」に対する自分の認識を見つめさせたいと考えた。どんな心で働くことが自分や周りの人の幸せにつながるかを学び、実践意欲につながる授業を目指した。そのために、ノートへの記述を大切にしたり、合い言葉をみんなで考えたりと工夫した。

② みんなが参加できる授業に

- ・板書の工夫(主人公の行為と心に分け、チョークの色や矢印の太さも変えて板書した)。
- ・表情カード(障がいのある児童にも理解できるように、カードの表情でそのときの心情を表した)。

授業の内容 (T:教師 C:児童)

- T:みんなは、仕事をするときどんな気持ちでしていますか。
C:いやだな。めんどくさい。
C:しかたない。
C:褒めてもらいたい。お金がほしい。
T:それって、よい仕事になる?
C:…よい仕事?
C:やりたくないと思うときの仕事は雑になるよ。
T:よい仕事って、どんな仕事のことかな。今日はそれを考えてみよう。

(教材範読後)

- T:純子さんの働きぶりや気持ちは、初めと終わりでどう変わったかな?
C:初めはうまく進まなかった。
C:嫌や。うんざり。またかという気持ち。
C:終わりは夢中。倍の速さになったよ。
C:楽しい。喜んでもらえた。もっと働きたいな。
(意見を聞きながら、行為と気持ちを分けて板書。表情カードを選んでもらいながら、貼る。)

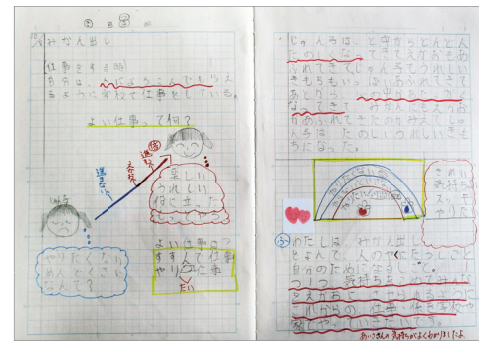
- T:どうして、そんなに変わったのかな。ノートに書いてみよう。文でも絵でもいいよ。
(一人ひとりがノートに考えを書く。)

- C:お母さんの励まし。褒めてもらったから。
C:気持ちが変わっていったのかな。
T:どんな風に?
C:「やりたくない」から、「やらないかん、働きたい」って。自分からやりたいと思えるようになったんだ。
C:やりたねえ(やりたくないの意)から、やらないかん(やらない)。そして、やりたい(やりたい)になっていったんだ。
T:やりたい心が、よい仕事につながっていくの?
C:スピードも上がるし、丁寧な仕事になるし、自分も楽しくなっていく!
T:大事だね。そんな「〇〇たい!」の気持ちで進んでみんなが働くとどうなっていく?

- C:すっきりする。
C:3組の教室がきれいになる。
C:学校がきれいになる。美濃加茂も、岐阜県も、日本も…。
T:すごいね。じゃあ、まとめるよ。よい仕事ってどんな仕事かな…。
C:やりたい(やりたい)気持ちでする仕事。
T:この3組にも「〇〇会社」*がいっぱいあるね。(ゴミ拾い会社の働きぶり、気持ちを紹介)
*〇〇会社…係活動に自分たちで社名を付けている。
T:今日わかったことや、いいなと思ったこと、これからしたいことを、ノートに書いてみよう。

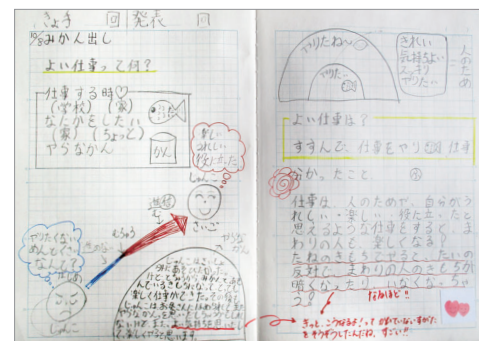
子どもの反応

【A児の振り返り】



主発問に対して自分の考えを書きながら深める作業をしています。これからの自分を見つめる記述もあります。

【B児の振り返り】



最後に本時の学びをノートにまとめています。その後、日記の中でも、「働くこと」についての思考を続けていました。

ここはナイス!
子どもたちの
発言を生かす



田中先生が、子どもたちのやる気を引き出し

しながら授業を展開し、子ども自身のよきに向かう心をもとに学級内の仕事への取り組み方の意識転換を図ろうとされているところがナイスです。教材内の純子の仕事への意識の変容をとらえさせるために、板書を図式化し、色分けしながら書かれており、子どもたちも視覚的な情報からも考えやすかったのではないかと拝察します。「やらないかん」から「やりたい」へという合い言葉も、子どもたちの発言をもとにしたものであり、授業後も定着しそうですね。

私なら
こうする!
問い返し、
さらに
掘り下げる



純子の変容をとらえるのはよいのですが、

その中身をもっと深く追究した方がよかったです。私なら、「なぜ純子は仕事に対してやる気が出てきたのかな。顔が違ってみかんから純子は何に気づくことができたのかな」と、掘り下げる問い返しをします。そのような問い返しから、みかんが純子の手に触れるまでに、いったい何人の手を渡ってきたのか。そして、これからどんな人の手に渡っていくのか。純子の働く手はどこにつながっていくのかを想像させることで、働く意味や意義を感じさせることができれば、自ずと働き方に変化が生じると思うのです。そして「よい仕事」ができる人の本質を考えさせます。本質は転移しますから、きっと子どもたち自身の仕事に対する考え方に影響を及ぼしてくれることでしょう。